

# 北東アジアの経済成長 －構造改革と域内協力 北朝鮮について

三村光弘 (ERINA)

## 2017年後半の朝鮮半島情勢

- **トランプ大統領の戦争をも辞さない強硬姿勢**  
(国連総会での演説など)
  - － 日本 米国の同盟国として圧力強化
  - － 韓国 米国による戦争に巻き込まれる危険性認識(文在寅大統領の光復節演説など)→平昌オリンピックを利用した「平和攻勢」の推進
  - － 北朝鮮 9月21日の「国務委員長声明」で激しく反発した後、沈黙→11月21日「テロ支援国家」再指定→同月29日「核武力完成の歴史的大業」を実現との政府声明

## 2018年前半の朝鮮半島情勢

- 北朝鮮、2018年1月1日の「新年の辞」を通じた平昌オリンピックへの参加表明→1月9日に南北高官級会談→平昌オリンピック参加
- 2018年3月25日～28日金正恩国務委員長訪中（北京）→4月20日朝鮮労働党中央委員会第7期第3回総会開催→同月27日第3回南北首脳会談→5月7日～8日金正恩国務委員長訪中（大連）→同月26日第4回南北首脳会談→6月12日米朝首脳会談→同月19日～20日金正恩国務委員長訪中（北京）

## 米朝首脳会談

- トランプ大統領と金委員長は、新たな米朝関係の確立と、朝鮮半島における持続的で強固な平和体制の構築に関連する諸問題について、包括的で詳細、かつ誠実な意見交換をした。トランプ大統領は北朝鮮に安全の保証を与えることを約束し、金委員長は朝鮮半島の完全非核化への確固で揺るぎのない約束を再確認した。（共同宣言から）

## 米朝首脳会談の意義

- これまでの低位の当局者同士で結ばれた米朝間の約束とは異なり、米朝の最高指導者が会って話をし、朝鮮半島に平和な体制を築くことに合意したこと
- 米国が北朝鮮を破壊すべき敵や体制崩壊の目的物ではなく、交渉のできる相手と認めただけで、何らかの安全の保証を与えることにし、北朝鮮はそれに対して朝鮮半島の完全な非核化を行う約束を行うというスキームが確定したこと

## 今後の課題

- 米朝が合意事項をどのように具体化させるか
  - － 米国:「上から目線」を捨て、北朝鮮をパートナーとして扱うことができるのか＝トランプ大統領が持っている個人的な信頼感を国家間関係に落とし込めるか
  - － 北朝鮮:金正恩国務委員長がトランプ大統領に持っている個人的な信頼感を北朝鮮の変革に結びつけられるか←非核化の対価は「米国の出ない普通の発展途上国」だが、それが持つ意味を理解する人々が北朝鮮には少ない

## 朝鮮半島における「平和体制」の確立 と朝鮮半島の変化

- 共通：信頼醸成の深化と軍縮（軍の権威低下をどのように平和裡に実現するか）
- 韓国：ユーラシア大陸の一部としての地政学的位置の復活。中国の影響圏への編入
- 北朝鮮：より経済を重視し、国際分業を多くの部門で受け入れていく過程の始まり（≒自立的民族経済建設路線のゆらぎから放棄への道筋）中国ヘッジのための日米ロへの接近

## 北東アジア域内協力と朝鮮半島

- 平和体制の定着により、北東アジアのイメージが変化していく（中東欧や東南アジア）
- 北朝鮮の変化には時間がかかるが、軍事的対立と経済交流が併存するようになる
- 南北間の信頼醸成の深化にともない、軍事境界線の垣根が低くなり、経済交流が活発になる
- 2018年は、大きな変化の起点であったと認識されるようになる。